



中し研だより

令和4年10月号(No.2) 発行 LD等支援教育研究会

中し研夏季研修会の報告

8月2日(木)9:30～京都市総合教育センターにて、夏季研修会を行いました。研修は対面のみで行われ、計66名の参加となりました。お忙しい中たくさんの参加ありがとうございました。

今回の研修では、「ICTの活用」に焦点を当てた研修となり、前半はICTを利用した教材についての事例発表を、後半は教育現場における支援機器としてのICT活用実践についてご講演をしていただきました。

「ICTを利用した興味・関心を高める教材」 藤森中学校 池上 賢治先生

前半の池上先生からは、**パソコンの解体及び組立**、**マイクロビットを用いたプログラミング**についての紹介があり、先生のご専門を生かした授業をされていることが伺えました。

藤森中学校の事例では、事例生徒の実態や特性の紹介をして頂いたうえで、実際に生徒がパソコンを分解・組立をしている様子や、プログラミングによって動かすことのできるロボットを発表していただきました。パソコンに興味を持っている生徒が、分解・組立の工程や部品の位置等を覚え、試行錯誤しながら長時間集中して取り組んでいる姿が見られました。



生徒も通級担当も一緒に取り組み楽しめることや、苦手なことだけでなく得意なことや優位なことを伸ばすことなど、短い時間ではありましたが、大変充実した内容をお聞きしました。



後半の木下先生からは、清明高校の ICT 環境の紹介、そして、学校全体で取り組まれているユニバーサルデザインと学習に困難が見られる生徒への支援についてお聞きしました。

清明高校で使用されている主なアプリ

授業支援

- ロイロノートスクール

自学自習

- スタディサプリ
- すらら
- ラインズドリル

コミュニケーション

- Teams (教員・生徒用)
- Slack (教員用)

その他

- Pages
- Numbers
- Keynote
- iCloud



清明高校で実践されている ICT 活用事例

- ① 板書の投影・配布
→板書時間、見る・書く・聞くのマルチタスク削減
- ② 生徒の iPad への画面共有・画面配信
→見る場所や教員の書き込みをリアルタイムで見られる、視線の往復困難や視力への支援
- ③ 自分のノートやカードをホワイトボードに投影する
→発表が苦手な生徒でも意見を共有することができる
- ④ 体育のデジタル化
→動画を撮り、客観的に自分の動きを見ることができる
- ⑤ 習熟度別見本動画
→音楽の器楽実技の練習を習熟に合わせて学習、教員はサポートに回ることができる
- ⑥ ノートの写真や実技の動画、課題等のオンライン提出
→提出物をなくすことがない、生徒・教員間の共有が容易
- ⑦ Teams での連絡
→保護者もみられることから、聞き逃しや予定・提出漏れが減った

ICT は文具であり手段である、教具だけではなく、生徒が文具として当たり前に見えるものであるべきだ、という考えのもと、どの生徒にも適用できる合理的配慮を学校全体で実施されている様子をご紹介いただきました。

詳しい取り組み内容の紹介や具体的な活動事例など、とても勉強になりました。池上先生、木下先生ありがとうございました。

先日、総合育成支援課の研修に参加してきました…… 10月14日

『困っている子ども』や養育者どう向き合しましょう？

福井市立西部療育センター 副主幹 診療担当課長

小児科医 八坂 知美

子供の『気になる行動』は、表にはあらわれにくい子供のSOSである。そのSOSに気づくことが大事から始まりました。(以下抜粋)

脳の発達

5感の脳の発達 (1歳までに大きく発達)

思考・表現力の脳の発達 (3歳までと思春期から25歳くらいまでに大きく発達)

つまり、情動や報酬と理性の成熟の差が思春期の「危なっかしい」行動の背景

愛着 (アタッチメント)

安定したアタッチメント形成を基盤として認知・情緒・社会性の発達につながっていく人生の基本

子供のころに形成されたアタッチメントのタイプはその後の対人関係のありかたに影響する

親 (母親) 以外ともアタッチメント関係を作るとは可能で足りない部分を補うことができる

安定したアタッチメント関係 → 「トラウマ」からの防波堤

マルトリートメント・愛着障害・トラウマ

① マルトリートメントとは……

子供の健全な身体的・精神的発達を阻害する可能性のある「不適切な養育」生涯にわたり個人の身体・精神の健康を損ない、国の経済発展と社会成長を遅らせる

虐待による脳への影響

*視覚野が縮小
*聴覚野が変形
*前頭前野が委縮

行動・感情・認知面の問題

②愛着障害

- *内向きタイプ・・他人に対して無関心・用心深い・イライラしやすい
- *外向きタイプ・・多動・友達とのトラブル多い・人見知りがない

一見、発達障害と誤ってしまいやすいけれど・・・

② ト라우マ（心の傷：自分で自分の心を守れなくなっている）

トラウマは「困った行動」として現れる

ストレス反応 3F

F i g h t（闘争）・F l i g h t（逃走）・F r e e z e（凍りつき）調



アタッチメント関係でうまく調整されないと



固定化した症状「困った行動」としてあらわれる

マルトリートメントなど、ずっとストレスにさらされ続けたことは、

→ 「怖い」「悲しい」「死んじゃうかも」「自分が悪い子だから」・・

→ 「見ないようにしよう」「聞こえないようにしよう」「感じないようにしよう」

→ 自分を守り、何とか生き延びるために脳に変化が起きた



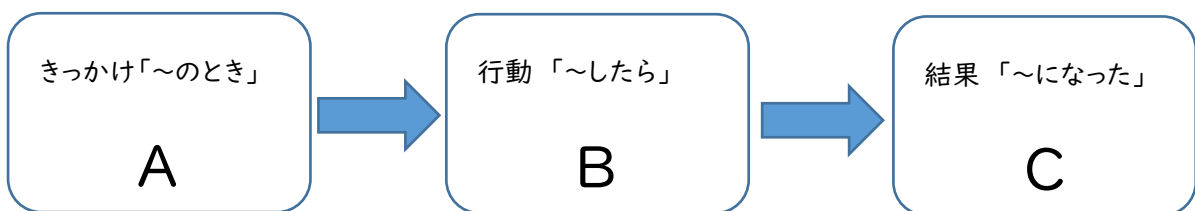
その結果の「困った行動」かもしれない

その子がどういう環境で生きてきたのか、今はどういう環境にいるのかを常に考える必要があります

どう向き合しましょう

「気になる行動」の前・後に着目する

① 行動のABCに分析してみる



指示を出すときは「CCQ」・・・

Calm（穏やかに）Close（近づいて）

Quiet（静かに）

② 子供の行動を3つに分ける

好ましい行動

○ ほめる・認める

好ましくない行動

△ 注目を外す・好ましい方法を教える

危険な行動

× 即座に止める

「ギリギリセーフ」を見つけるって？・・・普通〇〇できるよねと比べるのでなくその子なりにできていることを認める視点が大事！！

「ここまではできる」「ここまではがんばった」ギリギリセーフのポイント

「程よい」支援環境

- ① 視覚支援（絵や図）
- ② 指示が理解できる
- ③ 見通しが立って安心する
- ④ 自分の気持ちが伝えることができる

親だけではなく、私たちすべての大人の言動が子供の脳の発達に大きな影響を与える

もっと、詳しくお伝えしたいのですが、・・・この研修で一番心に響いたのは、上記の文です。私たちの何気ない言葉かけがその子の人生に大きく影響を与えるということです。表出しているところだけではなく見えていない背景・過去・現在も含めて寄り添っていきたいと思います

マルトリ予防WEBサイト
「防ごう！まるとり
マルトリートメント」

<https://marutori.jp/>